

各 位

一般社団法人 日本環境アセスメント協会
教育研修委員会委員長 後藤 隆
セミナー委員会委員長 中林 純

<一般公開>

2015年 JEAS第11回技術交流会 開催のご案内

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

(一社)日本環境アセスメント協会では、会員相互の技術交流及び業務の活性化並びに会員の有する環境アセスメント関連技術の内外への発信等を目的として、口頭発表及び展示発表を行います。

会員、会員外を問わず、多数の方々にご参加頂きたくご案内申し上げます。

敬具

記

- 開催日時 平成 27 年 12 月 2 日 (水) 13:00~16:30
- 開催要項 口頭発表及び展示発表、別紙プログラム等参照
- 会 場 ワテラスコモンホール
〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町 2-101 ワテラスコモン 3 階
TEL 03-5294-6300
- 参加費 無料
- 募集人員 80 名 先着順 (定員になり次第、締め切ります。)
- その他 この技術交流会は JEAS-CPD 制度の認定プログラム(6 単位)です。
環境アセスメント士の方は登録番号を記入してお申し込みください。
- 申込方法 申し込みフォームhttp://www.jeas.org/modules/liaise/?form_id=20
もしくは添付の申込書に必要事項を記入し、FAX して下さい。

2015年 JEAS第11回技術交流会 申込書

下記のとおり、技術交流会の参加を申込みます。

宛先：一般社団法人日本環境アセスメント協会 FAX：03-3230-3876

E-mail：asekyo@jeas.org

会社名			
住 所	〒 - 電話 - - メール		
参加者氏名	計 名		
番号に○をして 下さい	1. 会員 2. 非会員	環境アセスメント士 登録番号	

会場案内図（ワテラスコモンホール）

●会場案内図

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町2丁目101番地

TEL 03-5294-6300



東京メトロ千代田線「新御茶ノ水」駅徒歩約2分

JR「御茶ノ水」駅徒歩約3分

東京メトロ丸ノ内線「淡路町」駅徒歩約2分

2015 年 JEAS 第 11 回技術交流会プログラム

2015 年 12 月 2 日 (水) ワテラスコモンホール

13:30～13:40	開会挨拶、展示紹介
-------------	-----------

【口頭発表】

1	13:40～13:55	安斉 健雄 (一社)いきもの共生事業推進協議会 生物多様性配慮型、企業緑地の動向と ABINC (エイビック) 認証制度について
2	13:55～14:10	鈴木 健一 アジア航測㈱ バルーンを用いたコウモリ類の飛翔高度の計測
3	14:10～14:25	渡邊 千佳子 大成建設㈱ 生物多様性簡易評価ツール「いきものコンシェルジュ」の開発
4	14:25～14:40	池澤 紀幸 ㈱復建技術コンサルタント 常磐線特定環境影響評価

<展示発表 : 14:40～15:10>

5	15:10～15:25	佐藤 歩 (一財)電力中央研究所 火力発電所用大気アセスメント支援ツールの開発
6	15:25～15:40	猿川 明 ㈱風工学研究所 インターネットを利用した気象観測システム
7	15:40～15:55	(準備中)
8	15:55～16:10	内田英夫 エヌエス環境㈱ 放射性物質の環境影響評価のためにホットスポットと平均線量率で測定評価する方法

16:10～16:15	講評、閉会挨拶
-------------	---------

【展示発表】

13:30～16:15 まで 展示	【展示会社・団体】 (順不同) ○(株)環境研究センター ○(一社)日本環境アセスメント協会
----------------------	---

(注) プログラムは変更する場合があります。

2015 年 JEAS 第11回技術交流会
口頭発表・要旨

【口頭発表】

(1) 安斉 健雄

所属：(一社)いきもの共生事業推進協議会

演題：生物多様性配慮型、企業緑地の動向と ABINC (エイビंक) 認証制度について

内容の要約

企業と生物多様性イニシアティブ (JBIB) では、企業緑地の生物多様性に配慮した土地利用に関して、緑地の量や構成、維持管理、環境コミュニケーションなどを主な評価項目として、企業の緑地担当者 (専門家でない) が自己採点できる評価システム「いきもの共生事業所推進ガイドライン 土地利用通信簿 いきものモニタリング」を開発した。当初 JBIB の会員企業の緑地スコアリングやモニタリングツールとして活用されていたが、特に土地利用通信簿に関して、その後第三者的な認証をおこなうニーズが高まり、別法人として (一社) いきもの共生事業推進協議会 ABINC (エイビंक) が 2013 年 12 月に発足した。2015 年現在、会員企業 9 社、24 か所の企業緑地を認証し、企業の生物多様性活動の推進に貢献している。

(2) 鈴木 健一

所属：アジア航測(株)

演題：バルーンを用いたコウモリ類の飛翔高度の計測

内容の要約：

風力発電施設へのコウモリ類の衝突事故の影響を予測・評価するための調査手法として、空撮用バルーンを用いてコウモリの飛翔高度を推定する手法を紹介する。バルーンに録音機を接続したバットディテクターと GPS を搭載して飛行させ、上空でコウモリ類の音声を録音するとともに、検出高度と位置情報を同時に取得した。高度別のコウモリの検出頻度から、およその飛翔高度が推定できた。また、地上で同時に検出、録音したコウモリの音声と、上空の録音レベルの差から、音の距離減衰式を用いて音源の位置を算出し、飛翔高度を算出した。

本調査では、バルーンを静穏時に高度約 140m まで上昇させ、コウモリ類の音声を取得することができた。しかし、風速 4~5m/s 程度を超えた場合には機体が安定せず、安全上、高度が制限された。

過去に、気象観測ポール等を用いる方法が試みられているが、それらは移動が容易ではなかった。バルーンは、移動が比較的容易に行える点で、事業による影響を把握するためには有効であると考えられた。

(3) 渡邊千佳子

所属：大成建設(株)

演題：生物多様性簡易評価ツール「いきものコンシェルジュ」の開発

内容の要約：

施設計画においては、生物多様性に対してどのように配慮すればよいのか、それによりどのような効

果が得られるのかを把握することが難しく、これがクライアントへ計画を提案する際の大きな課題となっている。そこで、一般的には効果が見えにくい「生物多様性に配慮した緑地や水辺を創出することによって得られる効果」を、計画地を訪れる生きものの飛来可能性を予測して可視化するツールを開発した。

本ツールは、鳥類、チョウ類、トンボ類という親しみやすい生きものを対象に、対象地へ「来る」「来ない」を、現状や計画案について予測する。タブレットを用いることにより、クライアントとコミュニケーションをとりながら、短時間でリアルタイムに緑地・水辺計画のさまざまなケーススタディが可能である。これによりクライアントに興味を持ってもらいながら、生物多様性をより高める施設計画を導き出すことができる。

(4) 池澤 紀幸

所属：(株)復建技術コンサルタント

演題：常磐線特定環境影響評価

内容の要約：

東日本旅客鉄道株式会社 常磐線（駒ヶ嶺～浜吉田間）は、平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災の津波により被災した区間である。本路線は、駅や鉄道の利用客の安全を確保しつつ、自治体の復興やまちづくり計画との整合を図り、路線を現在の位置よりも内陸側に移設して復旧する。

本路線は、東日本大震災復興特別区域法に基づく環境影響評価の手続きを行った。「迅速な事業着手」という同法の趣旨に合わせた形での「環境保全」が求められた中で、特定環境影響評価書の作成・手続きを行い、その後、事業実施前及び事業中における事後調査を実施した。

本交流会での口頭発表は、①常磐線の概要及び被災状況、②復興特区法における環境影響評価、③特定環境影響評価書の作成、④事後調査の内容の主に 4 点について報告を行うものである。

(5) 佐藤 歩

所属：(一財)電力中央研究所

演題：火力発電所用大気アセスメント支援ツールの開発

内容の要約：

発電所アセスメントにおける大気質の予測およびその事前検討を支援するため、発電所から排出される汚染物質の大気拡散予測を簡便に行うことが可能な「火力発電所用大気アセスメント支援ツール」を開発した。このツールでは、地理情報システム (GIS) と大気拡散計算システムを組み合わせることで、簡単な操作により、発電所周辺地域の地表における汚染物質濃度を迅速に予測することができる。予測対象項目は、発電所アセスメントで要求される標準的な項目（年平均値、日平均値、特殊気象条件下における短時間高濃度）を網羅しており、計算手法はいずれも経済産業省の「アセス手引」に準拠している。本ツールは、Windows PC 上で動作し、煙源位置や濃度計算点などの設定、各種パラメータの入力などはすべて GUI (Graphical User Interface) により操作でき、発電所排ガスによる影響を容易に評価することができる。

(6) 猿川 明

所属：(株)風工学研究所

演題：インターネットを利用した気象観測システム

内容の要約：

地上気象観測の分野では、昨今の観測機器や通信インフラの急速な発達に伴い、比較的容易に、かつ安価に計測やデータ送信が実現できるようになってきている。

しかし、観測記録の品質を保持しつつ、データ損失を最小限に抑えながら、確実にデータを転送する

仕組みを有するシステムは多くないと思われる。

観測システム Wide Area Measurement System (WARMS) は、主に環境影響評価等のための風観測を目的に自社で開発したものであるが、その後改良を加え、降雨、温度、湿度、気圧等の各種気象観測にも対応している。

本システムは、以下の特徴を有する。

- ①多様なセンサーへの対応
- ②自動時刻補正機能 (NTP, GPS を使用)
- ③E-mail 等を利用したデータサーバへの即時データ転送
- ④過去から現在までの観測記録の閲覧用 WEB ページの提供
- ⑤極端気象 (強風や強雨など) 発生時における登録ユーザーへのお知らせ機能
- ⑥Linux OS の採用, 即時データ送信および目で見える管理による高稼働率の達成

本システムを用いて、これまで主に風を対象に 1000 地点以上で観測を行っており、システムとしては成熟期を迎えている。今後は、ソーシャルメディアを利用した情報の提供など、拡張機能を充実させていく計画である。

(8) 内田 英夫

所属：エヌエス環境(株)

演題：放射性物質の環境影響評価のためにホットスポットと平均線量率で測定評価する方法

内容の要約：

放射性物質の適用除外が削除され平成 27 年 6 月から環境影響評価を行うことになり、放射性物質についての技術ガイドが作成された。しかし技術ガイドでは、環境保全の基準や目標がないことから、定性的な表現となっており、調査項目として選定しなければならない放射線量率の基準も示されていない。そこで、除染のガイドラインである $0.23 \mu\text{Sv/h}$ の放射線量率を基準としてホットスポットの検出や放射線量率の現状把握までを定量的に扱う方法を提案する。

2015 年 JEAS 第 11 回技術交流会 展示発表の内容

No.	展示会社・団体 (申込み順)	備考 (展示内容)
1	㈱環境研究センター 茨城工業高等専門学校 「環境調査への適用を目的とする GNSS 利用地点設定システムの開発」	GPS などの全地球衛星測位システム (以下 GNSS) は現在身近なものとなっているが、これらの汎用単独測位 GNSS は環境調査の分野で利用する場合、誤差が大きく精度的に問題となる場合が多い。一方、測量分野で用いられている GNSS は高精度であるものの、価格が高く汎用の GNSS のように簡単にナビゲーションされるシステム構成とはなっていない。このような問題点を解消しつつ、各種の環境調査へ利用しやすい地点設定システムの開発を実施した。 システムは RTK (L1) で GPS/GLONASS に対応した受信機を採用し、測位計算は RTKLIB を用いた。また地点へ誘導するソフトウェアは自社開発した。 想定される利用方法は、予め図面上に設定されている地点への誘導や、目視しにくい地点に設置、埋設等されている物品の探索、また探索された対象物の詳細地点の記録である。 開発したシステムを土壌汚染調査の地点設定に適用した場合、誤差は数 cm 程度 (Fix 時) で十分な性能であった。また地上にマーキングされずに地下に埋設された直径 7cm 程度の試験用サンプルを再度掘り出す作業では的確に埋設サンプルを探索することができた。
2	(一社) 日本環境アセスメント協会	JEAS 協会活動の紹介、頒布図書の紹介